

## 伊丹市スポーツ推進計画取組実績一覧（するスポーツ）

重点施策	取組	概要	2018～2021年度までの取組状況
1 幼児・子どもの実施者を増やす	1 幼児の運動遊びを推進する	幼児に対し、遊びながら体を動かす楽しさを子どもたちに伝える。運動あそびプログラムの内容については、伊丹市スポーツ推進委員等と協議の上検討。	幼児の成長に必要な能力を運動教室で養い、基礎体力・身体能力の向上を目指し、伊丹スポーツセンターにおいては各種キッズ・ジュニア教室を、緑ヶ丘体育館において「リトルキッズ運動教室」「アシックスキッズスポーツラボ」を実施した。 幼児～小学生を対象としたスポーツセンターによるイベント「キッズフェスティバ」を開催した。スポーツ、文化に係る様々な企画、プログラムを提供。コロナ禍においても感染対策を行いながら開催した。
	2 児童・生徒の体力向上を推進する	各学校で行う体育授業の「補助メニュー」や「サーキットトレーニング」を充実、活用し児童・生徒の体力の更なる向上を図る。全国体力調査や伊丹市スポーツテストの実施結果を分析・評価し、全国平均を下回る種目については、個別具体的な対策・有効なトレーニングメニューを考案、実践することで、全国平均を上回るように取り組む。	各校において体力向上に向けたサーキットトレーニングや補強運動等を取り入れた授業を実施した。
	3 幼児・児童・生徒において、運動・スポーツ好きを増やす	各学校園で行う体育の授業等の内容に「遊び」「ゲーム」の要素を多分に盛り込む等工夫・改善を行い、実践することで、子どもたちの運動・スポーツに対する苦手意識の払拭を図る。	各学校園の要望に応じ、指導主事を派遣した。
	4 運動部活動における外部指導者を充実する	中学校の運動部活動における外部指導者について、専門的技術や指導力のある指導者を充実させるため、外部指導者の待遇向上、学校と地域との情報連携、学校と潜在的な地域人材とのマッチングを図る。	市内8中学校へ計20名の外部指導者を配置した。
2 若者・壮年の実施者を増やす	1 壮年が職場や通勤で楽しめるキャンペーンやプログラムを推進する	生活の隙間に運動時間を組み込むようライフスタイルの変換を提案する。仕事や家事の合間・通勤時間内に行える有効なストレッチ運動、筋力トレーニング等のプログラム・メニューの内容について、積極的に情報発信を図る。	伊丹市スポーツセンター作成のYouTube動画「おうちで簡単にできるトレーニング」、「おうちでできる簡単テニスボールマッサージ」や、同センターのブログ上での「ちょこっとストレッチ」等、自宅や隙間時間でできる軽運動について紹介、情報発信が行われた。
	2 スポーツクラブ21における壮年の会員を増やす	スポーツクラブ21という既存の地域資源を壮年の運動・スポーツ実施の場として活かすため、スポーツクラブ21への加入を促すようその魅力や特徴等についてより一層のPRを図る。	伊丹市スポーツクラブ21連絡協議会において、各SC21代表者やスポーツ推進委員と、会員増加策について意見交換を実施した。
	3 伊丹スポーツマップ（仮称）を開発し、充実する	伊丹スポーツマップ（仮称）を開発し、積極的に発信することで、自身の運動・スポーツのできる場所を組み込む壮年を増やし、壮年のスポーツ実施率の向上を図ります。	伊丹市地図情報「たみまっぴ」に「体育施設マップ」を掲載した。 今後掲載内容の充実が必要。
3 女性・高齢者・ファミリーの実施者を増やす	1 女性や高齢者が楽しめる教室やイベント等を充実する	家事や育児で忙しい女性が気軽に参加できるスポーツプログラムを提供したり、市スポーツ施設における託児サービスの実施・充実を行う等の取り組みを図る。高齢者が無理なく日常的に取り組むことができる運動・スポーツプログラムを提案、高齢者に対するスポーツへの参加機会の提供を継続して行うとともに、その普及・啓発等を図る。	伊丹スポーツセンター等のシニア向け教室事業として、健康、スイミング、テニス、卓球の各教室を開催した。 主に女性をメインの対象とした教室事業として、伊丹スポーツセンターにおいてはヨガ、ピラティス等の各種シェイプアップ系教室を、緑ヶ丘体育館において「レディースフットサルスクール」「美ボディエクサ・骨格美人教室」をそれぞれ実施した。 伊丹スポーツセンターにおいて教室受講者、各種施設利用者を対象とした託児サービスを提供した 伊丹レディーススポーツ大会（バドミントン、卓球、バレーボール、スポンジボールテニス）の継続実施した。
	2 ファミリースポーツの教室やイベント等を充実する	家族揃って気軽に参加できる運動あそび等を紹介したり、スポーツイベントを充実させ、参加を促す。本市で毎年開催の「体育の日のつどい」や市体育協会に加盟する各種目協会実施のイベント等、既存の地域資源を活かす。	「体育の日のつどい」において、キャッチボール教室やダブルダッチ教室、サーキット遊びコーナー等の企画を実施した。 （2020・2021年度は新型コロナウイルスの影響により「体育の日のつどい」は中止） 伊丹スポーツセンター教室や緑ヶ丘体育館における、親子体操、リズム・運動遊び、親子スイミング、親子サッカー教室等を実施した。
	3 歩きやすいウォーキングコースやジョギングコース及び自転車専用レーン等の整備を進める	市内に点在する公園や街並み、河川敷等を活用して、市民が気軽に楽しむことができるウォーキングコースを整備・設定するとともに、それらを活用したウォーキング等のまちを舞台とするスポーツイベントの実施を検討する。 「伊丹市自転車ネットワーク計画」に基づき、関係部局と連携し、市民が安全に自転車を利用できる環境づくりに努める。	「伊丹を歩こう！ワンデーウォーキング」を開催した。 「伊丹市自転車ネットワーク計画」に基づく自転車レーンの整備、サイクリングモデルルート上のルート案内看板の新設、スカイパークへの自転車ラックの設置を行った。
4 障がい者の実施者を増やす	1 障がい者が楽しめる教室やイベント等を開催する	障がい者スポーツのすそ野拡大のため、関係機関や各課との連携を図りながら現在取り組んでいる事業（あすなろ教室等）の内容の改善・充実を図る。伊丹市で毎年開催している「体育の日のつどい」における「障がい者スポーツイベント」を充実させ、より多くの方に関心を持ってもらうよう積極的な交流・啓発に取り組む。	「体育の日のつどい」の企画イベントとして、障がい者スポーツ体験会を実施した。 内容としては車いすバスケット、ポッチャ、フライングディスク等。 （2020・2021年度は新型コロナウイルスの影響により「体育の日のつどい」は中止）
	2 障がい者や健常者が共に楽しめるインクルーシブなプログラムを推進する	障害の有無にかかわらず、誰もが楽しめる運動・スポーツの振興を図る。「ふうせんバレーボール」等のインクルーシブなスポーツ競技が周知され、競技人口が着実に増えていくきっかけとなるような大会やイベントなどの実施を検討する。	兵庫県主催のフライングディスク審判員養成講習会にスポーツ推進委員が参加した。 アイ愛センターで実施の障害者スポーツ講習会にスポーツ推進委員を講師として派遣した。 6月～3月に「生涯スポーツ講習会」を開催。実施種目として、各種ニュースポーツの他「スポーツ吹矢」「フライングディスク」「卓球バレー」等の障がい者スポーツ種目も実施。ポッチャ等パラスポーツ種目用具の充実。
	3 スポーツクラブ21における障がい者の会員を増やす	障がい者の会員数の増に取り組む。市内各スポーツクラブ21に障がい者スポーツの導入を促し、障害があっても、気兼ねなくクラブに加入でき、クラブを自身の居場所のひとつにできるような風土づくりに努める。	取組なし。

伊丹市スポーツ推進計画取組実績一覧（みるスポーツ）

重点施策	取組	概要	2018～2021年度までの取組状況
1 “みるスポーツ”環境の整備	客席や仮設スタンド、観客コーナー、芝生等、身近な“みるスポーツ”環境を整備する	市内各スポーツ施設を計画的に改修を実施するとともに、併せて客席や観客コーナー、芝生等の整備を検討する。客席の増設工事等が難しい場合でも、折り畳み式の仮設スタンドや椅子等を備品として配置することで、みるスポーツ環境を整える。	折り畳み式の仮設観客スタンド等について、スポーツ関連企業の総合展示会「SPORTEC WEST2020」に参加する等情報収集を行った。
2 “みるスポーツ”文化の充実	1 トップアスリートやユーススポーツ等を“みる”機会を推進する	本市で毎年開催している「体育の日のつどい」等の場で、市民と選手のスポーツ交流イベントを実施したり、各種スポーツ大会やスポーツクリニックの開催誘致を積極的に行うことにより、市民がトップアスリートに触れる機会を増やし、スポーツの楽しさ、高揚感を身近で感じ、スポーツを行う意欲の向上につなげる。	「体育の日のつどい」の企画イベントとして、「大人のキャッチボール教室」を企画・実施。元プロ野球選手を講師として招き、キャッチボール教室やチャリティー対決を実施し、ふれあいの場を提供した。 (2020・2021年度は新型コロナウイルスの影響により「体育の日のつどい」は中止) ヴィッセル神戸の選手を招いて、各小学校区のスポーツクラブを対象にサッカークリニックを開催した。(伊丹市公募型協働事業)
	2 東京2020オリンピック・パラリンピック大会に向けて、オリンピック教育とパラリンピック教育を推進する	オリンピック・パラリンピックの歴史・意義や国際親善など、その果たす役割を正しく理解することを目的に「オリンピック・パラリンピック教育」を通して、「ボランティアマインド」「障がい者理解」「スポーツ志向」「日本人としての自覚と誇り」「豊かな国際感覚」を育む。	東京2020組織委員会等による東京オリパラフラッグツアーを伊丹市でも実施。伊丹スポーツセンターにおいて、大会フラッグと大会関連パネルの展示した。 聖火リレー誘致に向けエントリーした⇒落選 パブリックビューイング開催に代わる東京2020オリ・パラ伊丹市ゆかりの出場選手応援企画を実施した(応援メッセージ寄せ書き、応援動画作成⇒公開)
3 身近なバリアフリー・スポーツ環境の整備	スポーツ施設におけるユニバーサルデザインを推進する	各スポーツ施設の老朽化に伴う修繕、改修を計画的に実施するとともに、高齢者や障がい者も含めたすべての市民が気軽にスポーツに親しむことができる施設にするため、福祉のまちづくり条例その他基準規定及び利用者の要望等に基づき、計画的に改修等を行う。	福祉のまちづくり条例その他基準規定及び利用者の要望等に基づくスポーツ施設の修繕、改修を実施した。(点字ブロックの修繕、トイレの洋式化)
4 競技力の向上	1 子どもや青少年、壮年、高齢者、障がい者の競技力の向上を推進する	あらゆる世代のスポーツ競技者の身体能力や技術の向上を目的として、全国的・広域的なスポーツ大会への参加を支援するとともに、競技種目団体の活動を支援し、競技スポーツ選手の競技力向上や競技者の拡大を図る。	大会出場を奨励するための各種スポーツ大会の全国大会、国際大会への出場選手や指導者に対する助成金交付を実施した。 市民スポーツ祭、少年スポーツ大会、マスターズスポーツフェスティバル等の開催した。
	2 スポーツ団体や企業チーム等における競技力の向上を推進する	地域のスポーツ団体や企業チーム等の試合・大会に多くの市民が観戦に訪れるよう積極的に市民周知を図るとともに、スポーツ団体や企業チーム等の競技力向上に繋がる支援策について多面的に検討する。	各種大会で優秀な成績を収めた市内スポーツ団体等所属の選手の市長表敬訪問を積極的に受け入れた。 表敬訪問実施の際はプレスリリースを行い、市内外へのPRにつなげた。

## 伊丹市スポーツ推進計画取組実績一覧（ささえるスポーツ）

重点施策	取組	概要	2018～2021年度までの取組状況
1 質の高い指導者養成と活用	1 質の高い指導者養成を推進する	各競技種目に必要とされる、専門的・技術的な指導力に加え、科学的根拠やスポーツ医学に関する知識を活用した指導を行う能力も求められるため、多様な世代、レベルに応じた指導が行える指導者養成講習会について研究を行う。また、地域の指導者のニーズを把握し、必要とされる研修会の実施を図る。	伊丹市体育協会主催の指導者研修会、講演会を2019年度に2回、2021年度に1回開催した。 テーマ 2019年度 ・スポーツ選手の「みる力・感じる力」 ・「柔道MIND運動」の取り組みについて 2021年度 ・伊丹で生まれ育ちパラリンピック出場までの軌跡
	2 部活動指導員の活用を推進する	教職員の負担軽減の視点に立ち、技術指導が十分でない部活動を対象に技術指導支援に努める等、部活指導員の活用を推進する。	2018～2020年度の3年間にわたり、毎年中学校2校をモデル校として各1名（計2名）を配置した。
	3 障がい者スポーツ指導者の養成と組織化を推進する	伊丹市障害者スポーツ協会やアイ愛センター等と連携し、障がい者にスポーツの喜びや楽しさを伝えることができる障がい者スポーツ指導者の養成を図る。また、指導者同士の情報交換や交流、ノウハウの継承が活発に行われるよう、ネットワークの構築支援に努める。	県実施のフライングディスク審判員養成講習会にスポーツ推進員が参加、受講した。 6月～3月に「生涯スポーツ講習会」を開催。実施種目として、各種ニュースポーツの他「スポーツ吹矢」「フライングディスク」「卓球バレー」等の障がい者スポーツ種目も実施した。 スポーツに取組む障がい児・者を支援するボランティアスタッフを養成する講座をアイ愛センターで開催した。
	4 女性スポーツ指導者及び役員の登用・活用を推進する	伊丹市内のスポーツ団体においては、構成員が男性多数の組織が多いため、女性指導者及び役員の登用・活用を図るよう推進する。	伊丹市スポーツ推進委員会において、34名中過半数18名が女性となった。
2 スポーツボランティアの育成と活用	1 スポーツボランティアの啓発とモチベーション（動機づけ）を高める	これまでスポーツボランティアとして各種大会等に参加したことが無い人たちの動機づけとなるよう周知・啓発に努めるとともに、ボランティアを必要とする大会や団体に関する情報提供を積極的に行う。	スポーツに取組む障がい児・者を支援するボランティアスタッフを養成する講座をアイ愛センターで開催した。
	2 スポーツボランティア・リーダーの養成と活用を進める	スポーツボランティアの中心として活動できるスポーツボランティア・リーダーの養成と活用を図る。	神戸マラソンのボランティアスタッフとして、伊丹市スポーツ推進委員を継続的に2名派遣した。
3 連携・協働の推進	1 スポーツ団体・行政・学校等における連携・協働を推進する	地域のスポーツ団体や学校等と連携・協働し、地域で活動する優秀な人材を外部指導者として小中学校の部活動や体育の授業で活用する仕組みの構築を図る。	市内8中学校に合計20名の外部指導者を配置した。
	2 伊丹市体育協会、伊丹市スポーツ推進委員会、伊丹市中学校体育連盟等の連携・協働を進める	行政として、各種団体がつながるきっかけづくりに努め、交流を支援することにより、団体間の連携・協働を推進する。	「体育の日のつどい」の運営スタッフとして、各団体へ要員派遣依頼した。（2020・2021年度は新型コロナウイルスの影響により「体育の日のつどい」は中止）
	3 行政内の運動・スポーツ・健康福祉・公園などの事業に関する情報の共有を推進する	スポーツや健康・体力づくり推進に係る連絡調整を密に図ることにより、情報を共有し、総合的・効果的なスポーツ推進施策を推進する。	「いたみ健康チャージポイント事業」と2019年度市民ロードレース大会との協力を行った。
	4 スポーツ団体、学校、民間事業者等をつなぐ伊丹スポーツフォーラム（仮称）を設立する	講演やシンポジウム等を開催し、普段交流が少ないスポーツ団体、学校、民間事業者等に参加いただくことで、団体間のネットワーク構築の機会を提供し、人材の交流や施設の開放など相互の連携・協働の円滑化を推進する。	伊丹市体育協会主催の指導者研修会、講演会として 2019年度 ・スポーツ選手の「みる力・感じる力」 2021年度 ・伊丹で生まれ育ちパラリンピック出場までの軌跡 を開催した。 体育協会関係者のみならず、スポーツクラブ21会員、学校部活動指導者等も参加し、交流が生まれた。
	5 阪神間の自治体や県、姉妹都市等との連携・協働を推進する	阪神間の自治体や兵庫県等とのつながりを密にし、スムーズな連携・協働を図る。	阪神7市1町スポーツ行政主管者会議を開催、各市町における事業内容や課題等について情報交換を行った。毎年2回開催。
4 顕彰制度の充実	優秀な選手・コーチ、スポーツドクター、役員、ボランティアなど、顕彰制度を充実する	現在、スポーツドクター、ボランティア等についての顕彰制度が整っていないため、新たなスポーツ顕彰制度について検討する。	市内スポーツ団体主催のイベント「ITAMI SPORTS AWARDS 2018、2019」の開催を支援。伊丹市ゆかりのスポーツ選手の他、指導者等、地域スポーツに永年貢献された功労者の表彰が行われた。

## 伊丹市スポーツ推進計画取組実績一覧（伊丹ならではのスポーツ）

重点施策	取組	概要	2018～2021年度までの取組状況
1 伊丹独自のスポーツ文化の推進	1 なぎなたやいたっボールなど、伊丹独自のスポーツ文化を推進する	「なぎなた」や「いたっボール」について、今後の取り組みとして、学校体育における「いたっボール」の推進や学校対抗大会の実施、更なる普及と競技力の向上に努める。	小学校体育の授業へのいたっボール出前講座を実施した。 「いたっボール」交流大会への市外チームの参加もあったこと、用具の購入先についての問い合わせがあったこと等から、スポーツ推進委員の活動により市内に留まらず競技が一定認知されているものとする。 市内全中学校での体育の授業において「なぎなた」授業を実施した。 伊丹スポーツセンターにおいて「全国高等学校なぎなた選抜大会」を開催した。（2020年度大会は新型コロナウイルスの影響により中止）
	2 子どもから高齢者、障がい者が実施できる体操プログラム（たみまる体操：仮称）を開発する	市民の健康増進を目的に、子どもから高齢者まで日々身体を動かす習慣づけのきっかけとするために、伊丹市オリジナルの全身運動体操「伊丹たみまる体操（仮称）」の開発を検討する。本体操を健康づくりのツールとして市民に広くPRし、市民が生活の中で気軽に楽しく効果的に運動習慣を身につけられるよう普及啓発する。	2020年度かんぼ生命夏季巡回ラジオ体操事業へのエントリーした。 ⇒新型コロナウイルスの影響により巡回事業自体は中止となった。 代替事業としてかんぼ生命より提案のあった「デジタル巡回ラジオ体操会」を実施 YouTubeにおいて、ラジオ体操の実施動画を配信。体操の啓発と市のPRを兼ねた。
	3 伊丹市におけるスポーツ文化の資源を掘り起こし、充実する	伊丹市のスポーツ文化や伝統的スポーツ（相撲、なぎなたなど）に係る資料や情報の収集を行い、市のホームページやスポーツ施設において市民への情報提供を推進する。	取組なし。
	4 伊丹スポーツミュージアム（仮称）の整備と充実を進める	既存施設の一部を活用し、伊丹にゆかりのあるアスリートやコーチの関係グッズなどを集めて展示することにより、市民がスポーツへの興味、関心を深めていただけるようスポーツミュージアムの整備を図る。	芦屋市立美術館での企画展「スポーツ展 ～芦屋・阪神間のスポーツの歴史と未来」に関することや、オンラインミュージアムの手法について情報収集を行った。
	5 スポーツフォトコンテストやスポーツファッションコンテストなどのスポーツアートを推進する	身近なスポーツへの関心を高めるとともに、「みるスポーツ」としての楽しさを伝え、スポーツの普及・振興に寄与することを目的として、競技スポーツや市民スポーツをはじめ、運動会や日常の中でのスポーツを自由な発想で表現したスポーツフォトコンテストを実施する。 また、スポーツを始めるきっかけづくり、モチベーション向上につながるようなスポーツファッションコンテスト等の開催について調査・研究する。	取組なし。
	6 スポーツ団体や地域団体及び周辺地域が連携・協働し、伊丹らしい市民マラソン大会を開発する	川西市や池田市等と連携し、猪名川河川敷等を活用したフルマラソン、ハーフマラソンの大会を開催できるよう、関係機関等との協議・調整を図る。	市民ロードレース大会、市民駅伝大会を行った。 （2020・2021年度は新型コロナウイルスの影響により中止） 市民ロードレース大会にはマスターズ枠を設けて開催し、参加者より好評を得た。 （今年度は猪名川河川敷を活用し、阪神地区都市対抗駅伝競走大会を開催予定）
2 子どもや若者が楽しめるスポーツ環境の整備	1 子どもや若者が身近に楽しむことができるスポーツ環境を整備する	子どもたちが好きなきにスポーツができるよう、公園の一部をスポーツ空間として転用すること、公的施設の新たな開放事業に向けた協力要請等について、関係機関との協議や調査・研究を進める。また、オリンピック正式種目に追加されたスケートボード、スポーツクライミング（ボルダリング等）や、若者に人気のある3×3バスケットボール、フットサルなどができる環境整備について検討する。	スポーツクライミング壁の設置場所の検討した。（主にスポーツセンター）
	2 地域のスポーツ施設の整備	本市の公共スポーツ施設は老朽化が顕著となっており、供用から30～40年以上経過している施設が大半であることから、今後、施設の改修や更新に係る費用が増加することが予想される。 一方、少子高齢化を迎え、競技形態が変化するなど、各団体や市民からスポーツ施設に求められる要望も多種多様になっている。 しかし、本市の限られた財政の中で新たな施設整備を行うには、施設の配置や利用状況、市民のニーズを把握したうえで、施設整備の計画・方針を作成し計画的に整備を進めることが必要である。 また、本市のスポーツ施設を効率的・効果的に維持管理及び運営するために、サービス水準を公平に保ちながら望ましいスポーツ施設の配置について実現を図ることも求められる。 以上のことから、今後既存スポーツ施設の有効活用や長寿命化などを視野に入れた整備計画を策定し、計画的に取り組む。	各スポーツ施設の要修繕箇所、過去の修繕状況について調査、情報収集を行った。 スポーツ施設のストック適正化に関するセミナーに参加した。 令和3年度の国土交通省主催のサウンディング事業に参加、本市スポーツ施設のあり方に対する民間業者からの意見を聞いた。
3 伊丹出身のアスリートやコーチと、子どもたちや市民とが交流できる機会を推進する	伊丹出身のアスリートやコーチと、子どもたちや市民とが交流できる機会を推進する	企業等のクラブチームへの働きかけや、トップアスリート等による地域のジュニアアスリートの育成・強化等に積極的に取り組むクラブを支援することを通じて、トップスポーツと地域スポーツにおける人材の好循環を実現する。	住友電工の協力により「住友電工陸上フェスタ」において、小学生陸上教室の特別教室を実施。元オリンピック選手によるクリニックを実施した。 （2019～2021年度は台風や新型コロナウイルスの影響により中止）
4 スポーツ情報の一元化	1 市内における公共スポーツの予約システムなどの一元化を推進する	緑ヶ丘体育館・武道館、市立野球場、猪名川第1・2・3A・3B・4運動広場、古池運動広場、スポーツセンターにおける予約はシステム化されているが、他のスポーツ施設についてはシステム化されていないため、公共スポーツ施設の予約システム一元化を推進する。	取組なし。
	2 ウォーキングやジョギング、サイクリング、スポーツ施設などに関するアプリ開発を推進する	市民意識調査の結果でも今後やってみたいスポーツとして人気が高かったウォーキング、ジョギング、サイクリング等を実際にやってみたい、楽しみながら続けたいと思えるよう、おすすめコースや立ち寄りスポット、スポーツ豆知識、カロリー消費量などの情報を盛り込んだアプリの開発を検討する。また、アプリを通じて、個人の活動からグループでの活動となるようスポーツを通じたコミュニティづくりにもつながるよう働きかける。	新たな取組なし。 伊丹市地図情報「たみまっぴ」の「体育施設マップ」を充実させたり、市SNSの活用の中で同様の情報提供、働きかけができないか、今後検討を要する。